

とまこまい びじゅつかん
苫小牧の美術館の

みりよく つた
魅力を伝える

びとこま 第5号 2013年4月号

平成25年2月23日(土)、びとこま記者は、札幌にある二つの美術館へ向かい、北海道立三岸好太郎美術館では『音楽のある美術館4』(2013年1月25日~3月31日)、北海道立近代美術館では『AINU ART ー風のかたりべ』(2013年2月2日~3月24日)を見て、それぞれの美術館で働く学芸員さんのお話を聞きました。

☆☆

わたしたちは、JRや地下鉄に乗り、札幌の美術館に行きました。

汽車に乗って思ったことは、すごいな~と思いました。汽車は小さいころに乗っていたけど、寝ていたので景色は分かりません。運転手さんが、なんかへんなことをやっていたので、へんだな~と思いました。先頭のところを見ていたので、すごいな~と思いました。すごいゆれたので大へんでした。地下鉄は、すごいはやかったです。地下鉄は見る物がなかったのでねむたかったです。阿部天翔

最初は三岸好太郎美術館です。札幌の山、まる山にすむおばけの「マ〜ル」というキャラクターがいました。マ〜ルの足あとさがしやマ〜ルの絵本がいっぱいあります。マ〜ルの足あととはなぜ作られたのでしょうか。昔のある日、イベントをやっていて、次は大人たちのイベントだが、子どもたちがやってきて「マ〜ルがない」といいました。それをきっかけに、いつもマ〜ルがいるように、ということで足あとをつけたりしいです。次は、近代美術館です。とても広くって、ふんいきがとてもよかったです。レストランやおみやげ屋さんなどいっぱい店がありました。そこにはアイヌの展覧会がありました。彫こくやぬのなどで、いっぱいでした。作者の藤戸竹喜さんにも会えました。その人がくまの彫こくをすべて作った人です。作者のおじいさんのおじいさんのように『ふくろう祭り』が一番すばらしかったです。『四季のくま』や『ゴミを捨てないで!』などの作品もすばらしいです。広くてふんいきがとてもよくて、アイヌのくらしものをそけることなんてしあわせです。

ぜひ、みなさんも行ってみてください。浜明日美

美術館のたび



ふじと たけき まつ
藤戸 竹喜『ふくろう祭り』2013



北海道立三岸好太郎美術館で

気に入ったこと・おもしろかったこと

『飛ぶ蝶』という絵が気に入った。なぜかという、一まいの絵にかいているのに、本当にちょうが、とびだそうとしているように見えたのと、かげもかいてあったからだ。

三岸好太郎美術館には、二百五十二点以上もみぎしさんの作品がある。

この美術館ではイベントもやっている。内容は土曜セミナーやみぎしよせなどだ。その他、夏休みと冬休みは、たんけん美術館。毎年十二月のはじめの土曜日はマ〜ルの記念日である。そして、この美術館にはマ〜ルの足あとが七つある。なぜあるのかという、マ〜ルのてんらん会があった。そのてんらん会が終わってからも、子供たちがまちがってきてしまった。マ〜ルがいないから子供たちはかなしんだ。だから、床にマ〜ルの足あとをつけたそう。

山本舞羽

一番おもしろかったことは、おばけのマ〜ルの本を読んだことです。おばけのマ〜ルの中のシリーズで一番おもしろかったのは、『おばけのマ〜ルとゆきまつり』です。その次におもしろかったのは、『おばけのマ〜ルとちいさなびじゅつかん』です。おばけのマ〜ルのシールを買いました。美じゅつかんから出発する直前だったのであぶなかつたです。でもうれしかったです。

阿部天翔

おもしろかった作品…『檸檬持てる少女』。理由は、レモンはふつうに持てるのに、なんでレモンを持ったじゃなくて、レモンを持てるなのかなと思ったから。三岸好太郎美術館は、おばけのマ〜ルシリーズのモデルになっている。三岸好太郎さんは、お母さんに似ている。展覧会によってテーマが変わり、「音楽のある美術館」や「つくるのだいすきミュージアム」など所蔵品展を工夫している。

的場翔

最初入ったときは、「なんだかしずかだな」と思いました。でも中心部に入ったとたんクラシックな曲が流れていたで「心がおちつくな」と思いました。

『乳首』という作品は、なんだかグチャグチャだけど、なんかその中からその人がとびだしてきそうでビックリしました。

千葉心美

マ〜ル



絵・浜明日美



マ〜ル

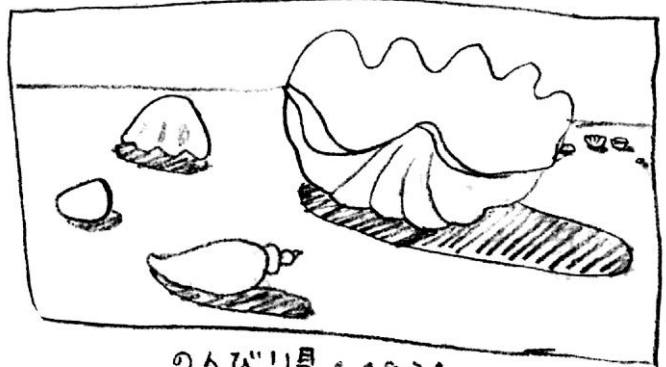


絵・山本舞羽

「おばけのマ〜ル」は、絵：なかいけいさん、文：けーたろうさんによる札幌を舞台とした絵本のシリーズです。浜明日美記者はマ〜ルの友達を思いつきました。樽前山に住むマ〜ルです。樽前山の形の帽子をかぶっています。

一番印象に残った作品は、『花ト蝶』で、花びんに入っていた花は、全体的に黄色やオレンジなどの明るい感じの色があり、春の花の色のイメージがあった。蝶はちょっと白に近い感じの黄色で、花と似ている色で初めて見た時は、どこに蝶がいるのかわからなかった。そういう一体化した感じが題名の『花ト蝶』という感じがした。少し見なくても、まだ強く印象に残っていて、自分が一番好きな作品だな、と思った。

阿部萌夏



のんびり貝・1934

初めて行ったけどすごく楽しかった。

メールがかわいかった。

メールのあしあとがあった。7つあった。

ざんしんな絵が多かった。

ふしぎな感じがした。

ぬりえが楽しかった。

また行ってみたいと思った。

なにをしているかの話がおもしろかった。

いろんな感じの絵が多かった。

自由にわかれて、まわっておもしろかった。

気に入ったのは花とちょうの絵。本村朱里

ぼくは、北海道立三好太郎美術館にはじめて行って、気になった絵は『悪魔』です。なぜなら、複雑で一番印象的だったからです。

あと、蝶の絵も印象に残りました。なぜなら昔から3Dはあったんだなと思ったからです。

佐々木健人

わたしがみぎしこうたろうびじゅつかんで見た作品でいいなあと思った作品は、『オーケストラ』という作品と『悪魔』という作品です。理由は、『オーケストラ』と『悪魔』という作品は、一つのキャンバスに表に『オーケストラ』、うらに『悪魔』がかいてあるからです。でも、実は『悪魔』という作品が表で、『オーケストラ』という作品がうらだったらしいです。でもわたしは、『オーケストラ』が白っぽく『悪魔』が黒っぽいかんじて、いいなあと思ったのも一つの理由です。

菊池りの

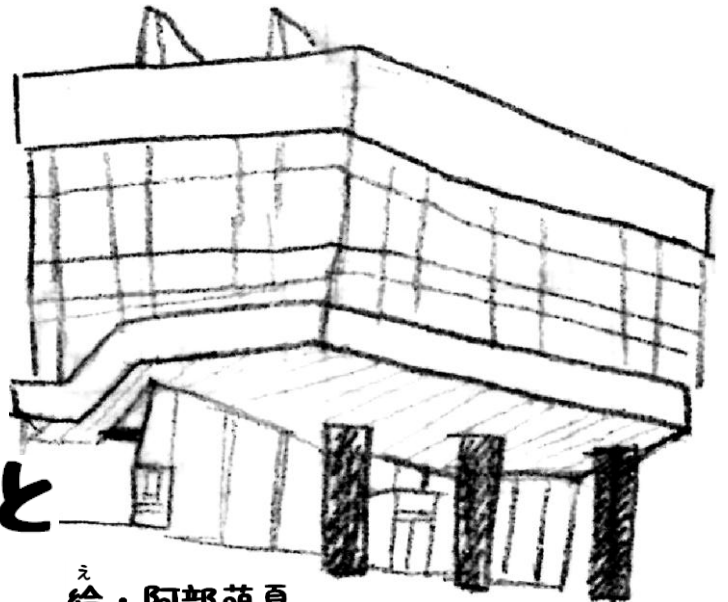


ほっかいどうりつ
北海道立

きんだいびじゅつかん
近代美術館で

気に入ったこと

おもしろかったこと



え 絵・阿部萌夏

気に入った作品は、『木彫りの熊』で、生き生きとした感じと、本当にふさふさしているような毛のほり芳にびっくりした。ほかにもやわらかく見える作品や、中にライトが仕組んであるものの発想にもおどろいたけど、『木彫りの熊』は、いくつもあったけど、どれも生きていけるようで、いまにも動き出しそうな作品ばかりで自分も一度はこういう作品を作りたいなと思った。

阿部萌夏

わたしが近代美術館であったAINU ARTを見て、いいなあと思った作品は二つあります。一つ目はアイヌのもんようです。もんようの形は水のながれや植物のトゲだと伝えられているということだそうです。二つ目は、くまの木ぼりです。くまの木ぼりは、ひぐまとホッキョクグマの木ぼりがありました。

作者（アイヌ彫刻家・藤戸竹喜さん）に会い、しつ問してみたら、「ホッキョクグマとひぐまの木ぼりは、さっと見るとあまりかわらなく見えるけど、じっくり見ると足の長さがちがったり、顔つきがちがったりして、少しかわっているよと言っていて、美さいに見てみたら、本当にちがっていて、いいなと思いました。

菊池りの



ふじと たけき
藤戸 竹喜
『リラックス』
2001

ぼくはさっぽろ近代美術館にいき、かんだうした作品は、『マタギシリーズ4』。あしあとがあり、かりゅうどが二人いて、くまが木につらされている作品です。

なぜなら、そのあしあとがあり、見ると冬だと思ひ、その中で熊をうったんだらうと思ひと、どんどん考えが深まるからです。

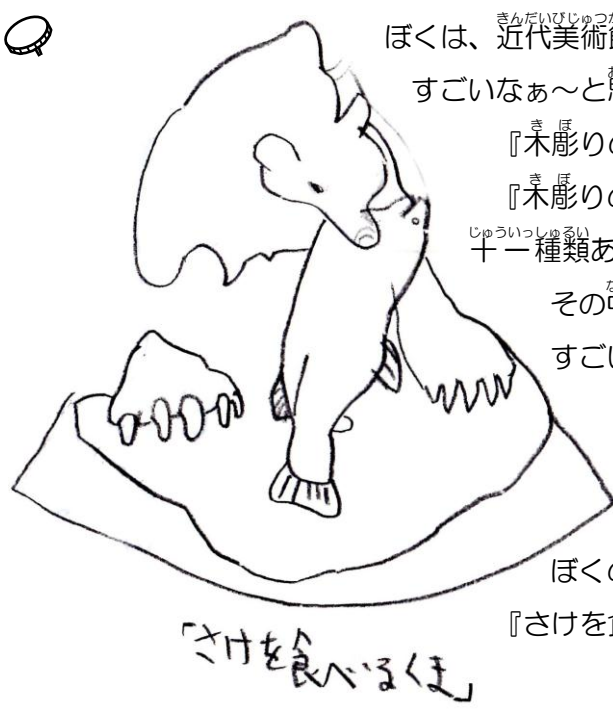
佐々木健人

アイヌの人の文化が分かった。的場翔

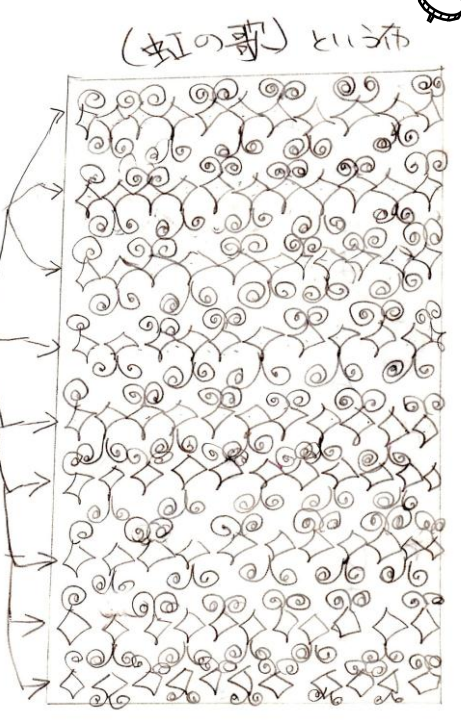
さっぽろ近代美術館で、
アイヌアートというてらん会
を見た。ここでは『モモンガ』
というちょうこくが気に入った。
木で出来ているのだが、まるで
木で出来ていないと思うくらい
モモンガのほほのふっくらして
いるところがとてもすごかった。

そして、なんとアイヌアート
の一人の作家さんに会えたのだ。作家さんの名前は藤戸竹喜さんだ。藤戸さん
は『ふくろう祭り』という作品や、『春夏秋冬』などの作品を作っている。ふ
くろう祭りとは、フクロウを重い神として祭るまつりである。私は『ふくろ
う祭り』の人が着ている服のもようまできれいに作家さんは作るのだな、とお
どろいた。とてもきれいに、それに、しばいもしない事にもおどろいた。
とても、よいたいけんをできた事をうれしく思う。

ぼくは、近代美術館に行って、
すごいなあ〜と思ったのは、
『木彫りの熊』です。
『木彫りの熊』は、
十一種類ありました。
その中で一番
すごいなあ〜と
思ったのは、
『川の恵み』
だけど、
ぼくの好きなやつは
『さけを食べるくま』です。



阿部天翔



北海道近代美術館で特別展『AINU ART』を見に
行きました。
作品の種類は大きく分けて二つありました。一つ
は熊などの木彫りの作品ともう一つは布でえがかれ
た作品でした。
中でも私が一番気に入ったのは、チカップ美恵子
作『フレブナ／虹の歌』という両手を広げたぐら
いの大きな布の作品でした。色あざやかで、小さな
文様がたくさんあって、ひきつけられました。
ほかには、木彫りの作品で、iPhone ケースなどの新
しい物を取り入れた物がありました。古い技術を新
しくアレンジした物がかっこいいと思いました。

本村朱里

北海道立三岸好太郎美術館へは、苫小牧駅から札幌に向かう特急すずらん乗車し、新札幌駅で地下鉄東西線に乗り換
え、西18丁目駅で降りて、そこから7分くらい歩いて行きました。北海道立三岸好太郎美術館は、北海道立近代美術館
のおとなりです。

はくぶつかん 十 博物館オープン びじゅつかん 美術館ももうすぐ あらかわかんちょう はなし ～荒川館長のお話～

とまこまいし はくぶつかん かんちょう ちしつ たんとく あらかわただひる
苫小牧市博物館の館長は地質を担当している荒川忠宏
さんです。

はくぶつかん はくぶつかん びじゅつかん
苫小牧市博物館は、7月に苫小牧美術博物館になります
が、博物館と美術館がくっついている建物(社会教育施設)
は北海道で、北見と滝川に加えて苫小牧の3つしかないそ
うです。

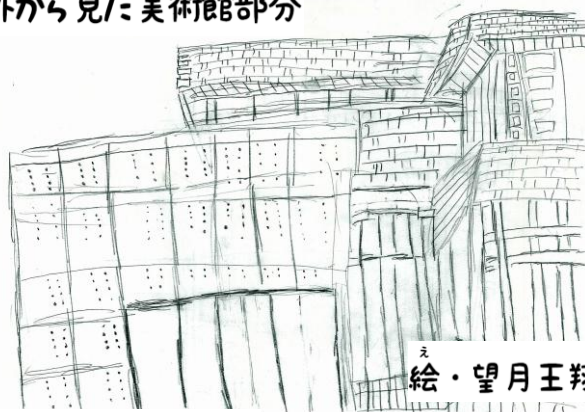
はくぶつかん じつぶつ み ちよ ちよ
博物館は、実物を見られるのが良いところです。古いもの
と新しい物をくらべる場所でもあります。歴史やその土地
の特色や、文化、古いものもあれば新しいものもある。古
いものを見て、未来を考える参考にもなったりするので、古
い展示物にも価値があります。

びじゅつかん ひと てんじしつ みつ はくぶつかん
美術館は、一つだけだった展示室が三つになり、博物館と
はちがう展示の仕方をするそうです。

あらかわ
荒川さんは、「みんなに楽しんでもらえて、みんなに愛さ
れる美術博物館を目指します。今までの博物館とはちょっと
ちがう展示を楽しんで。入場料は、小中学生は無料な
ので、みんなに来てもらいたい」と話していました。

荒井聖、亀卦川菜、佐藤かりん

そと み びじゅつかんぶぶん
外から見た美術館部分



え 望月王翔

そと み
外から見たラウンジ



え 亀卦川菜

あたら うけつけ
新しい受付カウンター



え 伊藤なつみ

とまこまいし ないしやうちゆうがっこう せんせい
苫小牧市内小中学校の先生に、びとこまについてのアンケートを
取りました。美術館広報部や『びとこま』を知っている先生は21人中17人。知らない先生も
いたのでもっと、いろんな人に知ってもらうように配ったりしたいです。「とても興味深い」「内容が
充実している」などの意見がありました。『びとこま』を授業に取り入れたい」という先生もいました。
アンケートへのご協力ありがとうございました。 佐々木健人、望月王翔

かんそう
感想などメッセージをお待ちしています♪

製作：美術館広報部
取材：阿部天翔、阿部萌夏、荒井楓、荒井聖、伊藤なつみ、菊池りの、
亀卦川菜、熊谷理菜、佐々木健人、佐藤かりん、千葉心美、
浜明日美、本村朱里、的場翔、望月王翔、山本舞羽
編集：樽前 arty、小河 けい
発行：苫小牧市博物館
(お問合せ) 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9番7号
tel 0144(35)2550 fax 0144(34)0408
HP www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/
e-mail hakubutukan@city.tomakomai.hokkaido.jp

(▽) 協力をお願い (▽)
「美術館広報部」の記者であることを証明す
るカードを提示された方は、取材
へのご協力をお願いします。
疑問点や確認等が必要とな
る場合、博物館までご連絡を
お願いします。

